

第56回試験研究成果発表会（林業）発表概要

【日時】平成31年2月7日（木）13:30～15:35

【会場】さんぶの森文化ホール（山武市埴谷1904-5 さんぶの森公園）

発表1 成果発表（13:40～14:05）

マツ材線虫病により高い抵抗性を持つ苗木生産

森林研究所 福原 一成

千葉県ではマツ材線虫病による海岸防災林の被害が続いており、再生のためにマツ材線虫病に高い抵抗性を持つクロマツ苗木が求められています。そのため県では、苗木の育成過程でマツノザイセンチュウの接種を行っても健全であった接種検定済クロマツ苗木の生産を行いました。本発表では、このクロマツ苗を海岸に植栽して再度マツノザイセンチュウの接種試験を行い、その抵抗性を明らかにしたので報告します。



クロマツの苗木生産

発表2 成果発表（14:05～14:30）

未利用木質バイオマスを有効活用するための簡易な搬出方法の比較

森林研究所 黒田 学

間伐・主伐に伴って発生する間伐材や梢端部等は、その多くが林内に残されたままとなっています。しかし、これらの林地残材も資源のひとつであり、簡易に収集することが出来れば、木質バイオマスの活用推進を図る上で有効です。本研究では、ポータブルロープウインチ、マッシュプーリー、修羅 iido 等の簡易な搬出方法について、現地で比較試験を行いましたので、その結果を報告します。



マッシュプーリーを用いた搬出

発表3 成果発表（14:30～14:55）

1年生クロマツコンテナ苗の生産技術と植栽適期

森林研究所 荒木 功介

海岸防災林の再生には多くのクロマツ苗木が必要なため、種子の効率的な使用ができるクロマツコンテナ苗の活用は重要です。試験の結果、肥効期間の長い緩効性肥料を用いて無加温の温室で育苗することで、追肥をせずに1年でコンテナ苗の生産が可能で、コンテナ苗の植栽適期は裸苗よりも長く、植栽後2年間は裸苗に比べて根元径の成長が大きいたことが明らかになりました。



クロマツコンテナ苗の植栽試験地